

石井執行部2期目スタート

令和6年度 北海道山岳SC連盟総会

北海道山岳SC連盟令和6年度総会は、5月19日札幌エルプラザにおいて評議員57名中13名出席、委任状提出16名計29名で開催した。石井会長のあいさつの後、議長に佐藤代議員（札幌山岳連盟会長）を選任し議案審議に入った。第1号議案から第3号議案及び監査報告が各担当者からあり、出席者からJMSCA（旧日山協）の財政危機などについての発言があったものの、提案通り拍手で承認された。

4号議案の「規定改正」においては、第1条でこの団体は 北海道山岳・スポーツクライミング連盟（以下「本連盟」という）と称する。英文では、Hokkaido Mountaineering and Sport Climbing Association と表示し、「HMSCA」と略称すると規定された。また、配布の規約規定集表紙にある団体ロゴマークは、出席者全員の採決により事務局案に決定した。

議案審議では、第5号議案「令和6年度に向けて」第6号議案「令和6年度活動方針及び事業計画」、第7号議案「令和6年度事業予算」、第8号議案「備品台帳」について審議し拍手で承認。

第9号議案「入会・退会申請」では今年度から新規加入の留萌クライミングクラブ、南知床山岳会が紹介された。

第10号議案「役員改選」 今期が役員改選であることから、加盟団体に対し新役員候補について照会したところ、常任理事会一任するとのことから、常任理事会で人選のうえ先月の理事会で承認を得た次の方々を提案した。

会 長	石井 昭彦（再任）	旭川山岳会/HFA
副会長	澤田 時人（新任）	登別山岳会
副会長	田中 清子（新任）	岩見沢山岳連盟/こぶし山岳会
監 事	益田 敏彦（再任）	札幌山岳連盟/北海岳友会
監 事	明田 通世（新任）	札幌山岳連盟/ロビニア山岳会

以上、第10号議案は拍手で承認された。



総会会場

第11号議案「その他」全道交流登山会 8/31-9/1 ・十勝山岳連盟主管 芽室岳ほか4座会場
・空沼岳～札幌岳登山道 森林管理局と協定締結し整備着手見込みの報告があった。

15:45 閉会

行事・各委員会事業報告

登山総合研修会 4/6-7 国立日高青少年自然の家・沙流岳

今春の登山総合研修会は、総勢 34 人の参加で実施しました。

初日の 4 月 6 日（土）は滝澤大徳講師（斜里山岳会・コーチ 2）による「山でたおれている人がいます！～あなたができること～」をテーマに登山中のケガや病気を発生した時の傷病者の接触や連絡、手当、搬送について講義があり、実際の手当の方法を学びました。夕方からは同講師による傷病者の安全な搬送のための基本的なテクニックやシートベントの結び方などを学びました。

2 日目の 7 日（日）は快晴のもと、日勝峠展望台駐車場から沙流岳（1422m）を山スキー班、スノーシュー班に分かれ、登り約 3 時間 30 分で全員頂上に立つことができました。天候に恵まれ、日高の山を楽しみ、ケガもなく現地解散しました。参加くださった会員と役員の皆様のご協力に感謝します。ありがとうございました。

（報告 総務委員長 澤田）



アルパインクライミング・レベルアップ 研修会（6）

12/23 層雲峡アイスクライミング・ブルーウルフ

行動概要 8：10 高山バス停～9：30 ブルーウルフ～クライミング～14：35 高山バス停

行動記録

上ホロ北西稜の計画だったが、あいにくの悪天候予報、ギリギリまで粘ったが上ホロの天候が改善せずアイスに変更となった。期せずして今期初アイス。

ただ高速が岩見沢～滝川で雪のため通行止めとなり国道 275 号線で北上。新十津川を經由して滝川 IC から高速へ。集合予定時間を 20 分程オーバーして到着。

本日は旭川山岳会のパーティー 5 名が先行しており、我々レベルアップ研修組は 4 名。先行のトレースをありがたく使わせていただくが、核心のへつり（フィックスロープあり）を使わないでアプローチするため直前でスノーシュー徒渉、50m ほど上流に詰めて再度徒渉し沢筋詰める作戦。スノーシュー徒渉は、靴半分浸水するも中は問題なく、無事狙いどおり難所を避けて沢筋に出ることができた。そこから 20 分程さらに登ると目指すブルーウルフだ。取付きまで 1

時間 20 分かかり登る前から疲労困憊。

ブルーウルフの取付きは先行パーティーの一段下になるため足場が悪く、何とか踏み固めて 4 人分のテラスをつくる。旭川山岳会は左のルートにトップロープを張るというので、我々は真ん中やや右寄りでピッチを切ることとなった。出だしが垂直に近い、全体で 45m ほどのピッチ。石井さんダブルロープ・リードで登る。

出だしザクザクのスカートで、垂直になってからも不均一な氷壁でスクリュウの安定感がない。それでもさすがのリーダーはきっちりトップアウト。

ビレイをしながら寒さのせいと足場の悪さのせいもあり不注意で落水に気が付かず右肩に拳 2 個分程の氷塊が当たる。痛みのため身もだえしながらもビレイ継続。あまりの痛さに骨でも折れたかと思ったが、少しずつ痛みが和らぎ肩を触っても骨の不安定さはない。打撲と判断してビレイ、クライミングとも続行の判断とした。

2 番手 K・H。10 本のスクリュウをなるべく回収していこうと思いながら登るが、待ち時間が長く手がキンキンに冷えてしまい登れない。ところどころフィフィでアックステンションをかけながら 7 本のスクリュウは回収。時間が掛かったが何とかトップアウト。アックスの振り方、足のスタンスの選び方はよかったが、いかんせん氷が平面で弱点がないのっぺりアイスのため自力の試されるクライミングとなった。

その後、残り 2 名も無事登ってきたが、4 名登り終えた時点で 13 時近くとなってしまう本日は終了となった。60m ロープで懸垂下降して取付きへ。帰り道も無事徒渉を終え濡れずに帰ってきたが、帰りに寄ったコンビニで顔中真っ赤になっており軽度の凍瘡となってしまった。そして帰り道は通行止めの区間が岩見沢～深川に拡大しており、4 時間近くかかっていたの帰札となった。

今期もアイスを頑張ろうと思う。

(報告者 K・H)

氷壁技術研修会 1/6-7 層雲峡大函・錦糸の滝他

日 時 令和 6 年 1 月 6 日(土)－7 日(日) 層雲峡大函手前駐車帯集合

場 所 6 日：覆道上の滝（NAKA 滝、尾滝、パラグフォール）7 日：錦糸の滝

参加者 17 名（斜里山岳会 3 名、登別山岳会 2 名、札幌山の会 4 名、北海岳友会 1 名、音更山の会 1 名、旭川山岳会 2 名、ロビンア山岳会 1 名、個人会員 2 名、高体連登山部 1 名

スタッフ：5 名（明田、下山、石井、出嶋、M 岸）

概 要 本年度の氷壁技術研修会は、コロナ感染も収まったので、1 泊 2 日で実施しました。

初日は風も無く、陽が当たり暖かい研修日和でした。皆さん時間前に集合でき、駐車帯は車で一杯になりました。駐車帯の車の置き方は、除雪されている開発局から「石北峠側に駐車」ということなので、縦列駐車で停めました。

今年は覆道上の滝を予定していたので、講師陣が先行して尾滝、NAKA 滝にトップロープを張って研修場所を確保しました。

尾滝で装備や登り方、V 字スレッドの作り方等の研修を行い、参加者には順番に滝を登ってもらいました。パラグフォールにもトップロープを張り、傾斜が異なる三つの滝を交代でビレイし合い、声を掛け合いながら登ってもらいました。

宿は「リゾートペンション山の上」を貸し切り、入浴と夕食を済ませて、17 時 30 分から机上講習を行い、道内各地にある氷瀑を紹介して、次ぎにどこか登ってみたい氷瀑は？と誘惑しました。



錦糸の滝で集合写真

講習会終了後、昨年度まで中止していた懇親会を行い、参加者同士の情報交換や繋がりを深めることができました翌日も風も無く良い一日となり「錦糸の滝」やや左側から 60m ロープ一本で登るルート右側のやや垂直部分に 40m ロープでトップロープを張り、参加者に挑戦したい所を登ってもらいました。

ここではセカンドの確保懸垂下降をしてもらいましたし、リードの練習やリードしてから V 字スレッドをつくり下降する技術を学んでいた参加者もいました。

また毎回、下山副会長兼海外登山委員長が釧路の酒屋から仕入れた酒粕で、美味しい甘酒を用意してくれ、冷えた体を暖めることができました。ありがとうございました。

(担当講師 石井 昭彦)

受講者感想

旭川山岳会 Y. K

全 般 今回、初めて参加させていただき、ありがとうございました。

なかなかグレードの高い氷瀑を登るには、リードが出来る方をお願いしなければならぬことが多く、普段は低所かグレードのやさしい場所でしか登る事ができないので、今回は普段登れない場所を登る事ができ、とてもいい経験ができました。

ここで満足せず、リードができるようにしていきます。

また、所属の山岳会でしかアイスクライミングを実施したことがなかったので、他の山岳会の方と交流しながら情報の交換や繋がりができたので、今後もこのような研修会に参加していきたいと思います。

管 理 宿泊場所等を調整していただきありがとうございました。とても快適に過ごすことができ、また現場での甘酒は格別でした。

最後に、この研修会を準備してくださったスタッフ、ロープを張っていただいたり、指導してくださったりした講師の方々、本当にありがとうございました。

今後もよろしくお願いいたします。

アルパインクライミング・レベルアップ研修会 (7)

1/14 上ホロ化け物岩・右ルート

リーダー 石井 参加者 N・M K・H

行動概要 7:30 十勝岳温泉駐車場集合～7:50 同発～8:50 安政火口

9:30 北西稜取付き尾根～中止(化け物岩へ)～10:30 右ルート取付き～12:45 懸垂終了～13:45 十勝岳温泉駐車場～解散

行動記録

カミホロ北西稜を目指すも荒天のため中止。

ただ下山するのも寂しいので化け物岩に行きたいと懇願しますと、リーダーとメンバーの同意をいただき、化け物岩へ行くこととなりました。

取付きに到着し、石井さんが軽々とリードしている様子にワクワクしていましたが、いざ自分が登るとなると不思議なことに登り方が分からない。何となく手足をかけ一歩進んだところでギブアップ宣言してみましたが、Kさんの優しい応援に何とか登る事ができました。

しかし、登った先は切り立った崖。石井さんが踏み固めてくれた雪に足を掛けると、雪は崩れて崖下に落ちていってしまいました。もう優しく応援してくれるKさんの姿も見えず、自分との闘いが始まったのです。恐怖心との闘いです。冷静に考えると、石井さんがビレイしてくれているし、手足も十分効くよい状態ではありました。登り切って石井さんの労いに涙が出ました。Kさんはサクサクと登ってきて、次のピッチをリードして行きました。その先は、先行Pあり苦戦されていたので、私たちは左ルート側を懸垂して終了。

取付き付近で2人が休憩し小腹を満たしていましたが、こんな場所でザックを下ろすなんて何かしたら転げ落ちると戦々恐々としている私に、Kさんは食料と飲物を恵んでくれました。石井さんとKさんの優しさに支えられ無事に登る事ができました。

こんな経験は個人会員の私には絶対出来なかったことです。素晴らしい研修に参加させて頂いて毎回レベルアップし続けさせていただいて、本当にありがとうございます。残る研修機会も少なくなってきましたが、最後までたくさんレベルアップしていきたいと思います。

(報告者 N・M)

冬期遭対研修会 1/20-21 三段山・白銀荘

令和6年1月20日～21日 冬期遭対研修会は三段山麓の白銀荘にて参加者一般2名、会員4名、スタッフ5名計11名で実施しました。

開会式のあと室内においてビーコンの取り扱い方、2時から野外ビーコン捜索の実践、40m程先からの複数埋没者の捜索、プローピングによる埋没位置の特定までできるよう実施しました。3時半からは5年中の遭難、罨問題など近年の状況、4時～ロープワーク研修、みな真剣に取り組む。

- (1) ロープの長さ、太さ、種類と材質、伸び、強度
- (2) スリングの種類と選び方
- (3) カラビナ 環付き・環なし、形状
- (4) ロープの結び方・結びやすい解きやすく・緩まない結び
- (5) エイト・ノット、ボウリン・ノット、クローブヒッチ、フィッシャーマンズ・ベント
オーバーハンド・ノット
- (6) スリングでハーネス・ウエストハーネス・チェストハーネス・フルハーネスづくり

食事の後、7時から地図について、低体温症の予防と対策について。8時半、意見交換会を開催。

2 日目はキャンプ場上部でロープワーク研修、斜面を登る、降りる確保ではセルフビレイの大切さ、ロープを使う引き上げ、ゴボウ、肩がらみ、腰がらみは引きずり込まれないよう注意をしながら実践しました。



白銀荘での室内研修

この日は晴れて前十勝がよく見え 10 時半からスノーシューで一段目上まで行き、途中地図上の地点をコンパスとスマホで確認、夏道と冬道の違いを認識し、雪崩の危険性を避けるなど今回の遭対研修は応募者が少なかったが、中身の濃い研修ができたと思います。

(報告者 齊藤邦明)

冬山講習会 Part1 2/3-4 羊蹄山・京極山荘

参加者	20 名＋スタッフ 6 名
宿	京極山荘
2 月 3 日	11 : 00 道の駅名水の郷きょうごく オリエンテーション、開会式
くもり時々雪	11 : 30 京極登山口発 歩行訓練 (装備確認、ビーコンチェック) (スマホアプリで位置情報確認、ラッセル、抜き上げキックターン ルート工作) C o 800m 地点付近にて下山
	15 : 00 京極山荘周辺で搬送訓練
	17 : 00 夕食を交え冬山情報交換 (山小屋で全員参加の共同食づくり)

京極コースには全くトレースがなく、ラッセルを実践しながら時折吹き付ける風と雪に我慢しつつ登り続ける。C o 800m を今日の山頂として下山準備をしてそれぞれの班ごとに滑降開始、純白なパウダーに歓喜の雄叫び満足満足！羊蹄山山スキーの楽しさを十二分に味わった。

山荘に戻りけが人搬送訓練に取りかかる。要救助者にプラティパスで湯たんぽをしのばせる。ツェルト使い講師のかけ声で梱包するが、なかなかスピーディには行かない。梱包手順、ロープセットと時間間に経過した。いざスキー搬送に入りこれもなかなかうまく移動できない。救助の大変さに「山で怪我をしない」を肝に命ずる。

山荘ではそれぞれの山スキー談義に耳を傾け、明日への期待が高まる。

2 月 4 日	5 : 30 朝食 (山小屋で全員参加の共同食づくり)
くもり	6 : 30 京極山荘出発→ キモベツルート
	11 : 00 C o 1000m 地点で下山
	11 : 30 キモベツルート登山口 閉会式

駐車場が混雑するとの情報で出発時間を繰り上げる。これが功を奏し我々の車でほぼ満車状態となった。トレースを利用しどんどん進むが「落とし穴」があった。予定のコース～外れキモベツルートに入っていた。ラッセルで苦勞するよりも、と安易にトレースを追う。C o900m付近からそれぞれの班が上を目指すのがやがて下山開始の無線が入り、今日はそこを山頂とした。早い時間に下山するとまたまた純白のパウダーが待っていた。キャッホー、キャッホー、こだまを繰り返し何より楽しかった事がうれしい。

受講者感想

函館山の会 S

今回初めて冬山講習に参加させて貰いました。今シーズンからバックカントリースキーを始め私にとって沢山の学びの機会となりました。1日目京極道の駅に集合した後、羊蹄山京極登山口への移動、参加者が3グループに分かれ、各リーダーのもと準備を整えビーコンチェックのやり方を細かく指導してもらい、その後グループごとにスタート。しばらく登り、次は地形図での現在地の確認方法について指導して貰い、今はスマホアプリで簡単に確認することはできますが、自分の登ってきた地形やその周辺にあるもの、どんな樹木が生えていたかなど、記憶しながら登る事も大切であることも教わりました。その後も歩行訓練（キックターン）の指導をしてもらい標高800から滑走し京極山荘へ。そこで緊急時のツェルト使い方やツェルトを使って要救助者の搬送方法など細かく指導して貰いました。山荘での夕食会ではみなさんとの山の話がとても楽しかったです。

2日目 羊蹄山（マッキモコース）を標高950mまで登りそこからの滑走で、雪質もとても良く楽しく滑ることができました。今回の冬山講習会では多くの学びがありとても有意義な2日間でした。今後の山行にも生かしていきたいと思います。

アルパインクライミング・レベルアップ研修会 (8)

2/10 雷電海岸・アイスクライミング：2ルンゼ

リーダー：石井 参加者：O・T K・H

行動概要 7：45 駐車場発～8：25 2ルンゼ取付き着～14：00 駐車場着～ナイル川偵察～解散

行動記録 初めての雷電海岸。以前からアイスクライミングの玄人向けルートとして認知していた。一度夏に海岸沿いを運転しているときに何気なく「お、すごい岩場があるぞ」と気が付くほどの迫力がある岩場である。駐車場で1～4ルンゼを見渡すとその広さ、荒々しさが目につく。今日は初心者向けで氷が安定しやすいという2ルンゼへ。

アプローチはスノーシュー。ラッセルにはならないが、少しずつ斜度を上げる。取付き直前でスノーシューでは上がれない斜度となり、ツボ足になって取付きまで。40分の汗かきウォーミングアップ。今日は風もなく、気温も高いので過ごしやすいが氷の具合はどうだろう。

60mダブルロープ2本、3人パーティーで登る。

1 P 目 35m w14

垂直面の多い氷を登る。海岸沿いの氷特有の刺さりやすさと柔らかさ。よく効く代わりに差したアックスが抜けにくい。スクリュウはアルミよりもスチールがよく効く。石井さんがいつもの調子でぐいぐい上がる。右岸にボルトと立派な立木で分散した残置支点があり懸垂支点にもなっている。見下ろすと後続の2人パーティーが来ていた。

2 P 目 45m w13

3級とは思えない氷、比較的段差のないのっぺりとした印象だが、一部シャーベット状・フレーク状になっている。フォローだから上がってしまうけれど、リードだったらこのアックスの効き具合では体を上げないな、というムーブを2回程出してしまった。リードであればもっと打ち直していただろうし、スクリュウを打ってもいくから3級とは言え負荷は高いピッチになった。



雷電海岸を攀る石井

3 P 目 25m w12

ほんの5mほどの滝なのでフリーで行こうとロープを解いて登り始める石井さん。2手ほど出したところで足が思ったよりも決まらず、思い直してクライムダウンしてロープを結びなおして普通に登る。1ピンのみ打って乗り越して終わり。ここも同じくリードでは出さないムーブ出してしまう反省。

4 P 目 25m w14

ここは最後だしリードしようと思ったが、結構負荷の高いピッチを上がってきており、石井リーダーにお任せする。最終ピッチで一番高度が高いのに氷は層状で柔らかく、リードするのならスクリュウの打つ場所に困りそうなルート。モノポイントのクランポンで登ったらセカンダリーが効いておらず体重をかけたときに縦に氷を割いてしまった。しっかりと蹴り込んでキックステップの要領で足を決めないといけない。アックスもグザグザ刺さるのに、なんとも不安感のある氷だった。

その後3回懸垂下降をして取付きまで戻る。懸垂をしながらいつも思うが、登ってきた壁を見ると登っている時よりも傾斜がきつく長く感ずる。下から見の方が登れそうな気持ちになるから不思議だ。

デブローチをスノーシューで降りるときに、1箇所だけ傾斜が急だったのでスノーシューを外して尻から降りた。どうやらそこでハーネスのギアクリッパーからアイスクリュウを1つ落としてしまったらしく、車に着いてから1本足りないことに気が付いた。仕方なく15分程再度汗をかきながら2ルンゼに向って登り、案の定尻のついたところでアイスクリュウを見つけた。

横着してハーネスに付けたままだということになる。次からはギアはなるべくザックにしまってからデブローチしよう。

時間もあつたので、ナイル川を見に行く。覆道沿いに知らなくてもそれとわかる立派な滝だ。しかもかなりぶっ立っている。いつか登ってみたい。と今は思えない程の難易度の高い氷だと

思った。もう少し実力を上げて見にきたらどう見えるだろうか。

今日もケガ無く終えることができたが、リードするときに不安定な氷でも確実に工夫しながらアックスもクランボンも効かせ、よい場所にスクリュを打ってプロテクションをとる総合的な技術を高めることが次の課題だと感じた。固くて分厚い安定した氷はもう卒業して次のステージに進んでみようと思った。

(報告者：K・H)

山岳スキー研修会 1/20-21 カムイスキーリンクス・音江山

参加者 23名 スタッフ5名

1月20日 10:00 カムイスキーリンクス集合
10:00~14:00 スキー場にて実践研修
15:45~17:00 座学
19:00~21:00 交流会
1月21日 9:00 音江山 スキー登行
15:30 閉会式



毎年年末に開催していましたが山岳スキー研修会が昨今の雪不足で昨年度はスキー場が開催数日前にやっとオープン、ヒヤヒヤもndでした。

今年度の年末にはスキー場はオープンしましたが、山に雪が少な

く1月に開催して正解でした。

今後は1月開催が恒例になりそうです。そんな中で開催できましたスキー研修会ですが、昨年を上回る23名の参加をいただき感謝します。私が知る限り参加人数は今回が一番多くなりました。そんな参加者は皆滑りたい気持ちが伝わってきました。今までの班編制を変えてみました。

初級、中級、上級と3班に分けていましたが、今年度からはとことん滑る班、じっくり練習班、基礎を学ぶ班としてみました。そうしますととことん滑る班は半数以上の人が希望されました。

一番少ないと思われた班が一番多く希望されました。今後は余り細かな練習よりがんがん滑り、気になるところを少し練習し滑りまくる研修会にしていきたいと思います。

昨年度はまだコロナの影響で飲酒を禁止はしませんでした、各部屋で個別に少人数で静かに飲んでもらいました。

でも今年は制限がなく全体での大宴会が開催され皆様の笑顔を見ながらの宴会は楽しい。今までの鬱憤を晴らすように楽しんでいました。来年以降も皆様の意見を取り入れながら開催しますのでよろしくお願いいたします。

受講者感想

美瑛山岳会 K

燦々と降り注ぐ日射しの中、スタートした2日間のスキー研修では、ゲレンデも里山も存分にスキーを堪能できる行事となりました。

初日は、カムイスキーリンクスで講師による指導を受けながらの滑走です。グループに分かれてそれぞれのレベルに合わせた技術を学びました。日頃、我流で滑っているので、講師の指導やグループメンバーの滑りがとても参考になり、己の未熟さを痛感。

特に山での滑走技術に特化して、シーンやコンディションに合せた技術を教わったのは大きな収穫でした。グループの中でも一番の若手ではありましたが、滑走テクニックは最も低く大先輩達が格好良すぎて憧れるのをやめられませんでした。

野外活動を終えてネイパル深川での座学研修

1 コマ目はビーコンの特性について、装着の仕方によっては感度が低下するとの説明があり、そのメカニズムと留意点にあっては今まで特段意識していなかった内容でしたので、今後は自分のみならず同行のメンバーにも声がけを心がけたいと思える内容でした。

2 コマ目は山におけるケガと対処法、救急要請における留意点について、実体験をもとに説明いただき、当時の生々しい現実を感じつつ、自分も当事者になりかねない危機感を覚えながら今後の有事に備えたいと思わせられる内容でした。

3 コマ目には翌日の山行計画を伺い、音江山の地形、タイムスケジュールや行動概要を把握しました。そして心待ちの懇親会は、コロナ自粛を経ての開催であり、それぞれの自己紹介を交えて情報交換から身の上話などで盛り上がり、なじみの方も初対面の方も終始和気あいあいと賑やかな時間はあっという間に流れていきました。

2日目、いよいよ音江山BCです。前日の指導を意識しながらいざ出陣。

積雪の状態はベストとは言えないまでも、穏やかな天候の中、班毎のペースでハイクアップ。行動中も地形の情報やキックターン、雪質の指導を受けられたことが今後の参考となりました。ピークが近づくにつれて風が強まりとても留まっていられる天候ではありませんでしたが、何とか3時間弱でたどり着くことができました。お楽しみ滑走ポイントは、先行隊の情報も参考にしながら雪質のよいエリアを選択していただき、気持ち良く滑走できたことに感謝。何より講師も参加者も皆笑顔で楽しんでいた事が印象的でした。

久しぶりに岳連行事に参加することができましたが、やはり世代や性別、職種も超えて山好きが集まり学び楽しむ事こそこの行事の醍醐味であると改めて感じる事ができました。

事務局の皆さんには大変お世話になりましたし、参加者皆さんのお気遣いや笑顔にはただただ感謝しかありません。次の機会を楽しみにまたエントリーさせてもらいたいと思います。

受講者感想

新得山岳会 ○

1月20日～21日 のカムイスキーリンクス及び音江山 滑走技術と深雪滑走技術 10 数年振りに道岳連の研修会参加。いつもは山岳会仲間だけ山でしたが、久しぶりに違った滑りも経験したくなり十勝の仲間に乗せてもらいカムイに到着。 班編成後ゴンドラに乗り山頂 楽しい滑走とベーシックテクニックを交えながら途中昼食を挟んで p m 2 : 00 まで 私は基礎ができてないので “へま “ばかり、格好が五木ひろしに似ていると言われ、何となく自分でも納得しました。

山岳スキー検定会 3/9-10 熊見山

開催日 2024年3月9日-10日

会場 熊見山西方 1327.8m 南南東斜面

参加者 5名

スタッフ 3名

例年3月の日高はパウダーがタツプリあり、検定会には最高の条件が整った盤石のエリアである。しかし2月の暖気ですっかりパウダーは締まりその後冷えて氷層 40CM 程の所にあり、場所によっては弱層になっている。

その後に降った雪も重たくて荒らされており、受験生には厳しい条件での検定会になりました。そんな条件での検定会でも流石道岳連の受験者は皆安定した滑りを披露していました。

どの分野でもそうですが、機器の進化によって常識が常に変わってきます。昨今ではスマホを使ったGPSが主流になり、地図コンパスの使い手が少なくなりました。

しかし、基礎ができての応用であり、それを疎かにはできません。今回初めて現地でのベアリング法を使った現在地の特定を課題としました。ほとんどの人が試験課題で緊張の中、基本的な知識を発揮できていました。

来年度以降も今までの形態にとらわれず新しい課題を見つけて検定会を開催して行きます。



検定会 滑走試験

(山岳スキー運営委員長 西嶋克巳)

冬山登山講習会 Part2 3/16-17 三段山

今回の冬山登山講習会 Part 2 は三段山を会場とし、一般1名、会員10名、スタッフ4名の計15名が参加した。参加形態はスキー13名、スノーシュー2名であり、2班に分けて行動することとした。

3/16 午前10時白銀荘玄関前で開講式を行い、体操、ビーコンチェックのあとスタート。三段山のノーマルルート（概ね夏道）を二段目上部の標高1450mまでハイクアップしたところ、強風とガスで見通しがきかなくなったため、班ごとに宮様コース（クラシックコース）及びノーマルコースを一段目下まで滑走した後、登り返すことにした。この時期としては雪の状態はよく、さほど深雪ではなかったので、皆さん滑りやすそうであった。



冬山 Part 2 三段山

2回目は両班とも二段目の上から宮様コースを滑走し、予定時間よりずいぶん早かったが、活動を終了して白銀荘に戻ることにした。懇親会には枝幸町及び札幌市から参加された方より海産物(ホタテ、ツブ、毛ガニ)、缶詰(メフンやロシアのスケトウダラの肝臓の缶詰、シシャモなど)の差し入れがあり、山スキーの話題などで盛り上がった。

2日目は午後から荒天が予想されたため、予定していた前十勝を三段山の西の谷方面に変更し、樹林帯で活動することとした。

前日の班ごとに標高が1200mまでハイクアップの後滑走、一度登り返してもう一度パウダーをお楽しんだが、滑走距離が少々短く、物足りなかったようだ。

今回の講習会は2日間とも曇りで、時折強い風が吹いたが、2日目には前十勝のピークや上富良野市街が望めた。2月まで外国人が多かった三段山も日本人ばかりで入込客も少なくなった。

次年度も雪の状態が良いときに長く滑走できる斜面を皆さんとともに楽しみたい。

(横辻 記)

受講者感想

札幌市 S・I

ゲレンデスキーしていた時でも、新雪や深雪は魅力的で、そういうのに恵まれない時でも、隅に残って踏み荒らされてないわずかな雪や林間の雪を楽しんでいました。3年前に仲間から山スキーの誘いがありはじめることにしました。回数としてはまだ10回にも満たなく、山スキーの醍醐味や感動を十分に味わうには至っていません。

今回の冬山講習会は、時期が3月中旬と言うこともあり、さらさらした雪に巡り会う事はないだろうと期待薄でしたが、実際来てみると思いがけず良質な雪でした。この場所は3回目ですが今までにない喜びを味わいました。2回目も雪質は良かったのですが、林間ということもあり私のスキー技術が追いつかなく無事に下るのがやっとでした。それにしても今回の参加者はみな上手なので圧倒されました。

今回、スキー靴やスキーの着脱など次の体制に移行するのに要領が悪く、時間に手間取り皆様方のひんしゅくを買うことになりました。大いに恥じております。スキー靴の装着にはもう少し工夫と回数が必要と思うものの、まだまだ反省の余地があります。私も後期高齢者となり、普段それなりにトレーニングを積んでいるものの年齢の壁は高く、皆さん方と行動をとともにできるギリギリのところに立っているのだと感じました。

今シーズン道内外で冬山事故が数多く報道されていますが、道岳連の実施する一連の事業に不安を抱くことなく全幅の信頼をもって参加できることを心強く思いますし、緻密な計画のもと、我々を引っ張ってくれるスタッフの方々には感謝の気持ちで一杯です。

これからもどうぞよろしくお願いいたします

山岳スキーツアー

3/30-31 羊蹄山

参加者7名 スタッフ3名 1日目ワイススキー場跡 2日目 羊蹄山 真狩夏道コース
除雪最終点の集合場所に予定通り全員集まり、スキーシーズンの最後を楽しもうとしている。
天気は曇り 山頂付近が見え、皆気合い十分で出発した。人数が少ないと全体の行動が早く、スムーズに動けるのがありがたい。

除雪のない道路から斜面に取り付くと汗がじわりと出てくるが、そのうち風が付いた。しかしその風は徐々に強くなり風速は15m以上か突風がなく倒れることはなかったが、今までで一番の強風、とても山頂どころではない。リフト終点跡地で風を避けながら下山準備、重いストップ雪に悩まされ下山。

2日目北海道の北西に低気圧が昨日同様停滞している。天候は昨日と同様と考えるべきだが、そこまで考えなかった。予定通り真狩夏道コースを登る。しかし900mを過ぎると昨日と同じ風が付いてきた。1200mで限界撤退し両日とも少々消化不良気味で今年のスキー事業は終了した。風下の京極コースはその日無風だったと後から聞いた。十分に時間を掛け準備をして開催しましたが、最後の詰めが甘く参加者に満足してもらえなかった事は反省します。

来年度も魅力ある企画を用意しますので、奮って参加をお願いします。

(山岳スキー運営委員長 西嶋 克巳)

受講者感想

音更山の会 ○

初日は参加者全員でワイスホルンへ行きました。スタートしたときは天気も良く暖かくてスキー日和でした。しかし、途中から強風、雪、視界も悪くなり始め、山頂や目指していた斜面を滑走することを断念、下山しました。下山時はストップ雪で滑りにくかったです。下山後は温泉に寄り京極山荘に宿泊しました。薪ストーブに水道、トイレも完備された快適な山荘でした。

美味しい夕食が準備されていました。また参加者の方々の差し入れもごちそうになりました。山荘の窓からの景色がきれいでした。

2日目は用意していただいた朝食を摂り、真狩コース～各班に分かれて羊蹄山に登りました。私は山頂まで行くぞ班に参加しました。羊蹄山も途中から強風で、しかもカリカリでスキーアイゼンを使っても上手く登れませんでした。ほかの方々は登っていました。それを見て皆さんすごいなと思いながら自分の技術や体力不足を痛感しました。

山頂まで行けず下山しましたが、滑走は前日のワイスホルンより雪は良く楽しく滑れました。

2日間、スタッフの皆様、参加者の皆様ありがとうございました。

道岳連だより

北海道山岳SC連盟広報 No. 100

令和6年5月30日発行

発行 北海道山岳SC連盟

発行責任者 石井 昭彦

編集担当(総務) 内藤 美佐雄

道岳連だよりは、理事会等で周知の通り令和6年5月30日 No.100号をもって廃刊とします。長期にわたいご協力いただきありがとうございました。今後の事業計画や事業報告などは道岳連ホームページをご覧ください。